富士宮市青少年育成センターだより
ともしび
令和6年3月7日　発行　No.3
発　行：富士宮市教育委員会社会教育課家庭･青少年係
連絡先：TEL22－1188　Fax22-1209
E-mail　：e-shakyo@city.fujinomiya.lg.jp

ほっこりタイム

「心に届く　伝え方②」

イヤだ・困ったと感じる子どもの行動が、親に具体的な影響を与えている場合（時間やお金・エネルギーを失う、やりたい事が妨げられる等）は、子どもを責めるよりも、“わたしメッセージ”で親の思いを正直に表現する方が、子どもの心に届きやすく、子どもが自ら行動を変えやすいと、前回お話しましたね。

この時、具体的な影響を語る事は大切です。子どもは自分の行動が親を困らせていると気付いていない場合も多いので、知るとビックリして、協力的に行動を変えようと思いやすくなるからです。

しかし、子どもの行動が親への具体的な影響がないのに、受け入れられなかったり、「その行動は子どもの為に良くない」と感じることもありますね。考え方や生き方・好みなど、親の価値観と子どもの価値観が対立している場合です。
そんな時に“わたしメッセージ”で思いを伝えても、「ほっといて！」と拒絶される可能性が高いですし、権力で子どもをねじ伏せようとすると、親子関係は壊れる怖れがあります。

親が大切にしている“価値観”を子どもの心に届けるには、どうしたら良いのか？
効果的な方法を幾つかご紹介して、本日のコラムは終わります。

◎模範を生きる（自分の価値観の実践）

◎コンサルタントになる（助言を求められたら、親は考えを纏め、必要な情報やアイデアを準備し、くどくど言わずに１回だけ伝え、選択は子どもに任せる。反発されたら、子どもの思いを“聞く”）

◎親自身の価値観の点検と、子どもが大切にしている価値観を知る努力

コラムニスト　静岡県人づくり推進員　兼
親業訓練インストラクター　尾駒　眞理

「わたしの主張 2023」富士宮大会で最優秀賞に選ばれました富士宮第三中学校　３年長谷川和音さんの作品を紹介します。
「わたしの主張」は日常生活の中で考えていること、社会や世界に向けた意見、将来の夢や希望などを周囲の人々や社会に対してメッセージを伝えることで、社会の一員としての自覚を高めることを目的として開催しています。
読者の皆様におかれましては、作品をとおして、中学生の頼もしい姿を感じ取っていただくとともに、青少年の健全育成への理解と関心を深める契機となれば幸いです。

「過ごしやすい世の中へ」　富士宮第三中学校　長谷川　和音

私は、Ｘジェンダーだ。なんだそれ、と思う人や、だから何だ、と思う人も少なからずいると思う。

最近は、インスタグラムやツイッター、テレビ等でもジェンダーについて発信しているのを見かけるようになった。それでも、「ジェンダー」という言葉がまだ聞きなれないひともいるだろう。

ＸジェンダーのＸとは、数学でよく使われているように、「未知数を表す」ために用いる記号のことだ。ジェンダーは「性別」という意味になる。つまりＸジェンダーとは、「未知の性別」という意味になる。これが正しいのかは当事者である私にも分からない。沢山の種数があるとも言えるが、「男」「女」と一概には言えないからだ。

そんなＸジェンダーや、その他の性的少数者は、人口の三～五パーセントほどいるらしい。学校の一クラスに一～二人いるかいないかくらいの割合だ。周りに気づかれていなくとも、性的少数者が抱えている悩みは意外と多い。その中でも特に大きな悩みは、「カミングアウト」についてだと思う。

どこかでカミングアウトという言葉を聞いたことはないだろうか。正しくは、「カミング・アウト・オブ・ザ・クローゼット」と言う。その名の通り、クローゼットの中から出て真の姿を開放する、という意味だ。簡単に言えば、秘密を公言する、ということだ。

誰に対してカミングウアウトをしたいのか、それは私達の一番身近な存在、『家族』だ。
どれだけ仲が良くても、自分の隠していることを言うには勇気がいる。否定されたら、理解されなかったらどうしよう、と思ってしまうからだ。でも、ずっと隠しているのも、息がつまってしまう。

もちろん、理解してくれる親もいるとは思う。でも私は、普段の一人称を変えたことがきっかけで、理解されても受け入れられないかも、と思った。

私の普段の一人称は「僕」だ。中学一年の夏ごろに変わった。今はもう言われることは無くなったが、二年前は「女の子なんだから僕や俺と言うのは良くない」と言われることがあった。私の親の気持ちはわからないが、女の子として産んだから、女の子として育ってほしい、という思いがあるのだろう。でも私はそれについて、疑問があった。

身体が女の子として生まれただけど、どうして女の子として生きなくてはいけないのだろう。もし私が男の子として産まれていたらこの悩みを持つことはなかっただろう。

いくら多様化して「男の子は青や黒、女の子は赤やピンク」という概念が薄まってきても、生物にほぼ例外なく当てはまる「男」と「女」という意識は、そう簡単になくせるものではないのは分かる。でも、だからと言って必ずしもどちらかになる必要は無いとも思うのだ。

それを理解してもらえないことが、一番の課題だと私は思う。

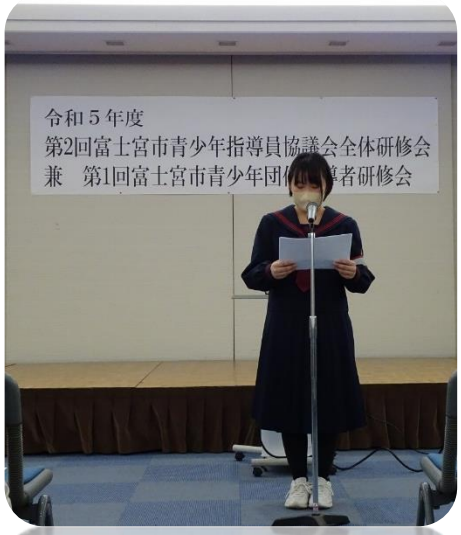
インターネット等で情報を受け取れる世の中とはいえ、その対象は私達若者であり、私達の親の世代ではない。親の世代にすら理解されないというのに、その上の祖父母の世代なんて尚更だ。生きた時間が長ければ長いほど、幼い時からあった「男」と「女」という意識は変えることは殆ど不可能だと言ってもいいだろう。

では、どうしたらいいのだろうか。これは無理だ、と諦めた人はない。昔からの風習や伝統で苦しんだ経験が、私にもあるからだ。

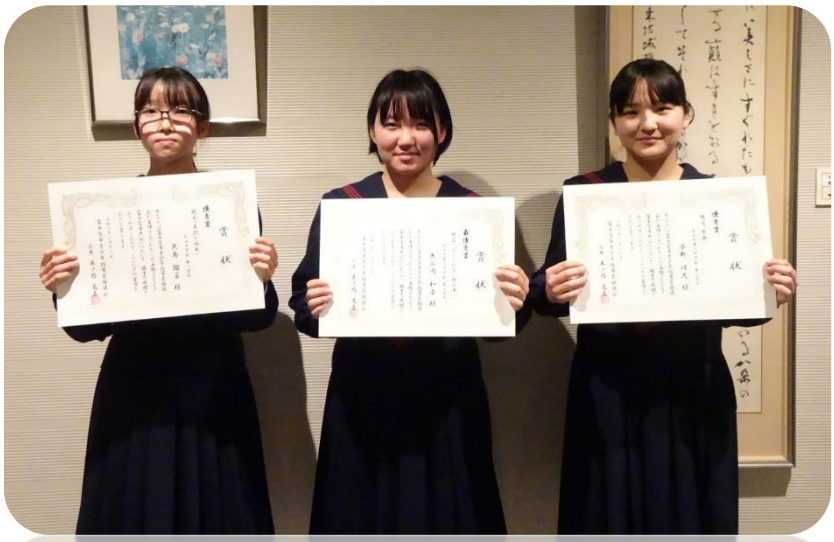
先程書いた通り、一番の要因は「情報を持っていない」ということだ。その問題の解決策は、なにか無いのだろうか。

私は最初、新聞やテレビなどのメディアで取り上げる量を増やせばいいと思った。でもそれは、理解をされてもその問題を身近に感じてもらうことは出来ない。当事者になった時それを受け入れることが出来なければ意味は無い。

もう一つの解決策として、学校でジェンダーについて勉強をするというものもあったが親に知ってもらうことには繋がらないし、教員がジェンダーの人が今よりもっと過ごしやすい世の中にする、ということは、私一人では成しえない事だと思う。だからこそ、多くの人に協力してもらえるようにこれからも沢山の知識を身につけ、私と同じように悩んでいる人の役に立ちたい。



令和６年１月１８日（金）に行われた令和５年度　第２回富士宮市青少年指導員協議会全体研修会で作文の朗読をする長谷川和音さん（富士宮第三中学校　３年生）



わたしの主張２０２３富士宮大会　表彰式　１月１８日（金）
会場：富士宮市役所　７階　特大会議室

最優秀賞	富士宮第三中学校	３年	長谷川　和音さん(中央)
優秀賞	北山中学校	２年	矢島　瑠菜さん（左）
優秀賞	富士宮第三中学校	３年	水野　珠花さん（右）
優秀賞	北山中学校	３年	小松　奈々さん

こどもたちの安全を見守るために

―地域の青少年声かけ運動―

この実行章をつけている方は
声かけ運動参加者です。

静岡県教育委員会が推進している「声かけ運動」は、地域の青少年に対し周りの大人が積極的に関わることにより、青少年の健やかな成長を支援しようという取組です。青少年にあたたかな声かけをして、あたたかな地域をつくっていきましょう！

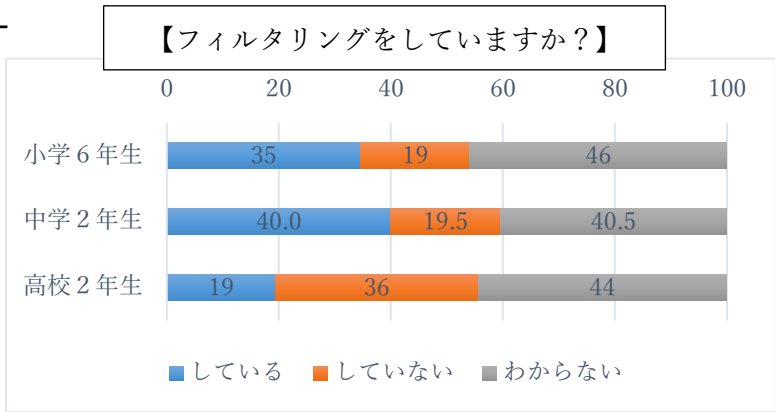
富士宮市声かけ運動参加者数１６３５８人（本年度申し込み２５３人（R６．２月現在））になります。申し込みは富士宮市社会教育課　家庭・青少年係で受け付けています。

―青少年指導員の取り組み―

富士宮市には１２８名の青少年指導員がいます。地区ごと２８グループに分かれ、毎月２回パトロールをしていただいております。他にも年２回の県内一斉補導や電車内補導、祭典補導もしてくださっています。多くの青少年指導員のみなさんが地域の見守りをしてくださっています。緑色のジャンパーが目印になります。今後ともよろしくお願いいたします。

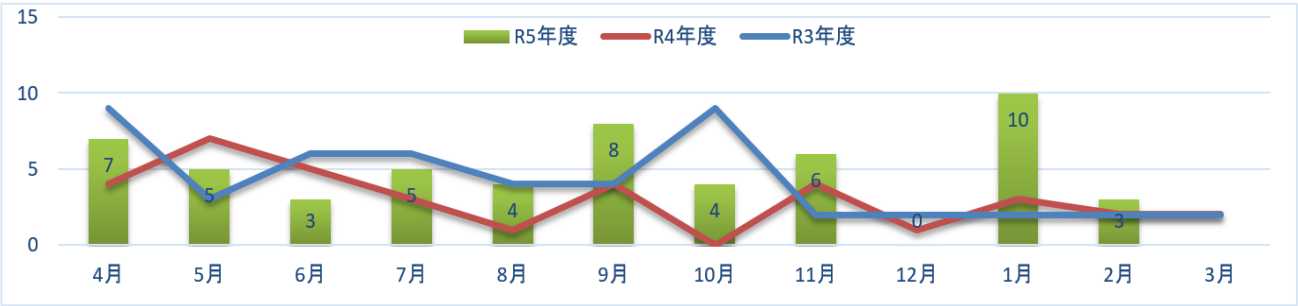
―有害情報からこどもを守る―

右のグラフは、本年度実施したインターネットに関する結果です。こどもはどんどん新しい知識を手に入れ、大人が思っている以上にできることがたくさんあります。フィルタリングと合わせて、ペアレンタルコントロールで有害情報からこどもたちを守りましょう！



―不審者からこどもを守る―

月別発生の推移



上のグラフは、過去三年間の不審者情報の月別発生の推移になります。過去の発生状況を見ると新年度を迎える４月に不審者情報がよくあることがわかります。こどもが安全・安心して生活できるように家庭での声掛けはもちろん、多くの大人で地域を見守っていきましょう。